

52班 好きと得意の相関性

背景

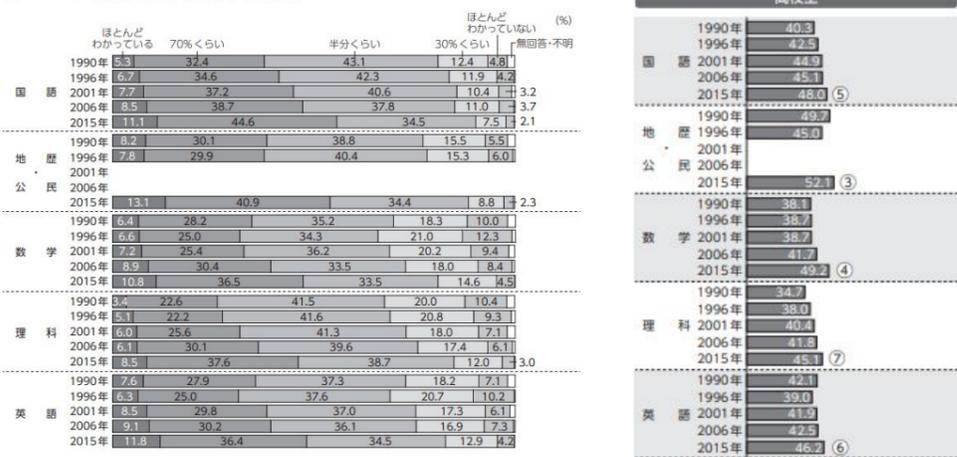
体感的に、好きな教科ほど記憶に残りやすいと感じている。
→好きという感情が、より長期的な記憶の定着に影響するのか。

仮説 I

好きな教科は記憶が定着しやすいのではないかと

先行研究

図1-2-3 授業の理解度（高校生、経年比較）



ベネッセ教育総合研究所には授業の理解度と好きな教科についてのグラフがあり、授業の難度など外的要因もあるが、2つの相関性が見られる。

実際にベネッセ教育総合研究所に問い合わせたところ、好きな教科と授業の理解度には0.5から0.7ほどの相関関係があるとの回答を得た。

仮説 II

先行研究により好きな教科ほど記憶の定着がしやすいことがわかった。
つまり仮説 I が正しいことが先行研究よりわかった。

→新たな仮説

好きと得意の相関はなぜ起こるのか
教育心理学から考えていきたい。

動機づけとは

個体の行動を始発させ、方向づけ、推進・持続させる工程のこと。一般的に「意欲」と呼ばれる。

＜内発的動機づけ＞

活動に対する好奇心や興味によって生じる動機づけ 例) ピアノが楽しいから続ける。

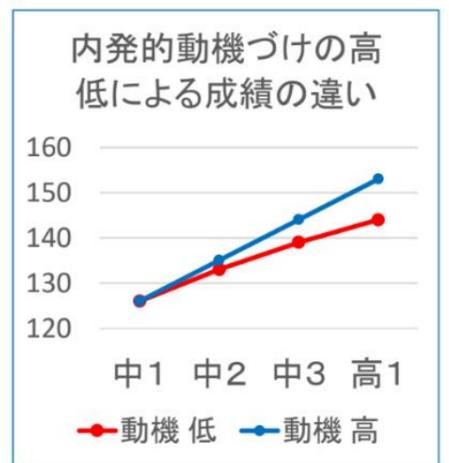
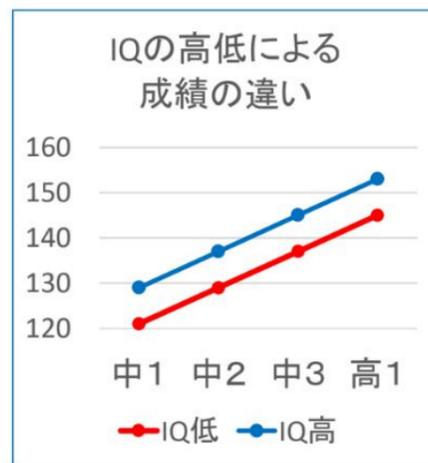
＜外発的動機づけ＞

外部からの働きかけによってもたらされる動機づけ 例) お母さんに褒められるから続けよう。

内発的動機づけが高いと..

- ・活動に対して粘り強く取り組む
 - ・創造性を高く発揮することができる
 - ・深い認知的処理を行えるようになる
- メリットが多い

＜知能と動機づけの効能＞



- ・IQは成績のスタート地点に影響
- ・内発的動機づけは成績の伸びに影響

提案

- 私達は動機づけを高める方法として多読をおすすめします。多読を行うと
- ・読解能力が向上する
 - ・様々な物事の興味につながる
- などの効果が見込める

まとめ

幼児教育においては特に内発的動機づけが意識されており、文科省の「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」では、「生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心」を培うものとされている。

子供の持つ「好奇心」こそ大人になりつつある私達に最も必要なものだ。

参考文献

- ベネッセ教育総合研究所『第5回学習基本調査』 第1節 教科や活動の好き嫌い 第2節 授業の理解度
<https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4862>
<https://www.jikuukan.ac/web/guide/aex1.php>
<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/26695/kokusai0000400150.pdf>